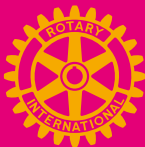


Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリーテーマ

2020～2021年度クラブ目標

『35年目の再構築 ロータリーの源流へ』

会長 吉野 敬之
幹事 堀田 一彦



第1646回例会

令和2年11月19日 (12:30～13:30)

○ソング

- 奉仕の理想

○ビジター

- 深谷ノースRC 会長 福島昭様、幹事 高田幸生様、新島修一様、平井博様、小野猛様、関口善伯様

○スマイルBOX

- 深谷ノースRC 新島修一様 (今年度ガバナー補佐を務めています新島です。久しぶりの白河西RC訪問を楽しみにしておりました。本日はよろしく願いいたします。)
- 深谷ノースRC 福島昭様 (本日は深谷より訪問させていただきました。よろしくお祈り申し上げます。深谷ノースは今年度20周年を迎えます。またガバナー補佐を輩出してIMも開催されます。こちらもよろしく！)
- 深谷ノースRC 高田幸生様 (白河西ロータリークラブの皆様、本日はお招きいただきありがとうございます。35周年おめでとうございます。今後ともよろしく願いいたします。)
- 深谷ノースRC 関口善伯様 (白河西RCのみなさんお久しぶりです。本日はみなさんと会えるのを楽しみに来ました。よろしく願いいたします。)
- 深谷ノースRC 小野猛様 (白河西ロータリークラブの皆様、ご無沙汰しております。本日は久しぶりの貴クラブの例会、楽しませていただきます。)
- 深谷ノースRC 平井博様 (深谷ノースの平井です。本日はお世話になります。久しぶりに白河に来ました。)
- 吉野敬之会長 (渡辺県議本日は卓話いただき有難うございました。福島会長をはじめとする深谷ノースの皆様、ようこそお越しくださいました。皆様の御健闘をお祈り申し上げます。)
- 堀田一彦幹事 (深谷ノースRCの皆様ようこそ。義信さん卓話ありがとうございました。)
- 永野文雄会員 (ゲストの渡辺義信県議員様ありがとうございます。深谷ノースクラブ福島会長をはじめ多くの皆さん、ようこそ白河西RCへおいで下さいました。短い時間ですが楽しんで下さい。)
- 矢田部錦四郎会員 (渡辺義信様今日は卓話ありがとうございます。深谷ノースクラブの皆さんようこそ！)
- 山口治会員 (深谷ノースのみなさん、ようこそ白河西へ。こういう状況なので、短い時間の交流ですがよろしくお祈りします。)
- 運天直人会員 (渡辺先輩卓話ありがとうございます。深谷ノースの皆様ようこそ西クラブへ。おかげ様で本日結婚20周年目を迎えました。RCも長く続きますようがんばってまいります。今後ともよろしくお願い致します。)
- 鈴木孝幸会員 (渡辺義信様卓話ありがとうございます。深谷ノースのみなさま、ようこそいらっしゃいました。)
- 成井正之会員 (深谷ノースロータリーの皆様、ご来訪ありがとうございます。大変な時節ではありますが互いに頑張りましょう。渡辺義信先生卓話ありがとうございます。)
- 金田昇会員 (深谷ノースロータリークラブの皆様、ようこそおいで下さいました。渡辺県議員様、卓話ありがとうございました。)
- 居川孝男会員 (渡辺県議卓話ありがとうございます。深谷ノースRCのみな様ようこそ！今年度35周年の実行委員長を受けましたので、何かとお世話になりますが、よろしくお祈り申し上げます。)

▶第1646回例会出席状況 (R2年11月19日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	46名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	60名
Ⓒ ①の出席者数	24名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	8名
Ⓕ ②の出席者数	6名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	38名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	52
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	73.08%

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



吉野敬之会長

皆さん、こんにちは。今週もお忙しいところを例会のほうにご参加いただきましてありがとうございます。実は、午前中にうちのお店のほうの全電源喪失ということで、完全に電源が付かなくなりまして大変な騒ぎでございました。施工会社が悪いのかという話もあつたんですが、施工会社ではなく電源の工事が悪いということで決着しましたので、今日はこちらの施工主は来てないみたいですが、でもご安心いただければと思います。まずは今日は、お客様のほうをご紹介したいと思います。今日、卓話を頂戴します福島県議でございます渡辺義信県会議員でございます。渡辺県議は自民党福島県連自民党会派の幹事長をお努めになっておりまして、鬼の幹事長として非常に福島でも恐れられている辣腕の幹事長だそうでございます。先日、増子議員がどうやら国会参議院のほうでは自民会派のほうへ鞍替えということで、いろいろ物議を醸しだしていたみたいでございますが、その辺のほうも後程卓話の中で裏話などをお聞きできるのかなと楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。それと、我々の姉妹クラブでございます福島会長はじめとする深谷ノースクラブの皆様でございます。今日はわざわざ深谷のほうからお越しくださしまして、いつも美味しい深谷ネギを頂戴するのですが、あれは非常に美味しいんですが若干干りの車の中が物凄い匂いになるという、美味しいものには匂いがあるなということでございますが、今日は残念ながらお持ちはいただけなかったので、代わりに後程ご紹介させていただきますけどお酒とお菓子のほうを頂戴しておりますので、後程またご紹介させていただきます。福島会長のほうから、後程ご挨拶とメンバーの紹介をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。急に野球の話で恐縮なんですけど山田哲人さんがヤクルトの選手でございますが、FAで7年35億円プラス出来高で約40億というような契約内容がまとまったという話がありまして、多分この金額を容易に想像できるのはうちのクラブでは藤田龍文君と青木大君くらいかなと思うんですが、先だっては中日ドラゴンズの大野雄大選手が3年で出来高別として9億円という、年3億円ほどの年俸ということで契約まとまったという話が出ておりました。この二人、ちょっと私この話で注目したのは、お二人とも多分ジャイアンツが取りに行くんじゃないかと。そうすると、山田選手だと1年で7億じゃないかと、大野選手だと5億じゃないかと4億じゃないかと、非常にそういうふうの高い金額を提示されるんじゃないかと言われていたんですが、このお二人とも所属球団それぞれヤクルトと中日に恩義を感じて男気で残ったと。お金ではなくてやはりやりがいとか育てていただいた御恩、日本人らしさが出ているのかなと思っておりますが、この二人共非常にもっと高額を望めるところを、その金額でやっぱり人と人との繋がりであるこの球団に落ち着いたというようなお話だと思います。よく武士は己を知る者のために死すとか、人は単のみにて生きるのではあらずという言葉もございますが、やはりそういった自分を知っていただくそういった中に、自分の生きがいであったりそういうものを見つけていくということが、やはり日本人たる美徳かなと思っております。これやはり、日本人のメンタリティーなのかなと思っております。ロータリーという組織の中で、ロータリーの求めるところ、進むところ、そういったところももしかしたら私たちの生きていく中の一つのそういうメンタリティー、指標になるのかなと思っておりますし、せっかくこの

会に入ってるのであればそういったものを見つけて、そういったところに進んでいける人間になりたいなというふうな若干思った次第でございます。まあ、どこまで行っても私は35億円は手にできないと思いますが、皆様との絆はきちんと残るのかなと、残していけたらなということを思いました。今日は盛沢山のプログラムでございます。楽しみにしております。以上で、会長の時間とさせていただきます。

■幹事報告

堀田一彦幹事

- 白河赤十字奉仕団：白河赤十字奉仕団創立30周年記念誌配布のお願い
- 公財)ロータリー米山記念奨学会事務局長 柚木裕子：ハイライトよねやま248
- 国際ロータリー日本事務局 クラブ・地区支援室：第2回クラブ・地区支援室メッセージ (2020-21Q)
- 国際ロータリー第2530地区ガバナー事務所：表彰該当調査表 表彰該当調査票〈会員数調査〉について
- 国際ロータリー第2530地区ガバナー事務所：信任状 正本について、補助金管理セミナーのテキストについて、補助金管理セミナーの出欠について

■委員会報告

○35周年実行委員会

35周年実行委員会の皆様に、本日夜6時半から白河商工会議所で行われます。声がかかっている方は夕食も出ますので参加のほうよろしく願いいたしますとのことで、35周年実行委員会からでした。

■ゲストの紹介

○深谷ノースRC

会長 福島昭様



皆さん、こんにちは。大変ご無沙汰しております。今日は晴れて6人で白河西さんにお邪魔をさせていただきます、本当にありがとうございます。また、まず最初に白河西さんに御礼を申し上げたいと思っております。前年度は、中目さんの会長の時だったんですが、白河西ロータリークラブさんから深谷市の駅の前に大変素晴らしいベンチを寄贈していただきまして、白河西ロータリークラブさんのお名前と私共深谷ノースの名前入りで深谷駅の真ん前に設置させていただきました。その設置の際には、中目会長はじめ何名かの白河西さんのメンバーの方とか、それからうちのほうでは深谷市長も出席いただきまして、派手にというわけではないんですけど披露することができました。本当にありがとうございます。また今年は、深谷ノースロータリークラブが誕生しましてちょうど20周年ということで、最後の6月に20周年を計画しております。また、今年はここにいらっしゃいます新島さんが2570地区第4グループのガバナー補佐になりまして、大変若いメンバーも今日は来なかったんですけど、大変いろんな勉強する機会がありまして楽しんでおります。後程、一言喋ってもらいたいと思っております。それから、今日は6名でまいりましてせっかくの機会ですので順番に、わずかの時間ですけど一言づつ披露させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○深谷ノースRC



新島修一様

皆さん、こんにちは。今年度、ガバナー補佐を務めさせていただいてます新島修一です。白河西さんとは本当に毎回訪問させていただきまして、顔見知りの方が年々増えてくるのを楽しみにしております。わたくしも第4グループのガバナー補佐になりまして、11クラブ今年度受け持っているんですけど、各クラブの会長幹事会の時にいつもコロナの埼玉県感染状況を皆様にお知らせいたしまして、第1波の武漢コロナとそれから第2波、今回の第3波のヨーロッパ型コロナの違いについて、私なりの感想を添えまして各クラブのリーダーはどういうふうに動いたらいいかというのをアドバイスしております。こういう状況の中であってもクラブのリーダーは後ろに引っ込むべきではない、前に出るのがリーダーの役目だということを毎回言ってますけれど、各クラブの会長さんによってはやはりそれでも動けないという方もいらっしゃる。埼玉県状況は県南東京寄りの埼玉と我々のクラブがある県北のほうはだいぶ状況が違うんです。そこら辺をコロナに負けないでロータリー活動をやるように、皆さんにはっぱをかけてやっておるつもりでおります。今後とも白河さんとお付き合いの仕方もできるだけ前が出るように深谷ノースのほうではそういう形で意見を述べていこうと思っております。よろしくお願ひします。

○深谷ノースRC



平井博様

こんにちは。平井博と申します。今度、20周年の実行委員長にさせていただきます。ちょうど白河さんと何かこう交流がある時、自分のほうもいつも何か用ができちゃって久しぶりに来られたなということで、本当に皆さんの顔が見れるのが楽しみにしておりました。白河さんのほうは来年の4月11日に35周年ということで、私どもでは6月28日の月曜日に20周年ということで行われます。去年の年度計画を作る時に、ちょうど4月の頃でロータリーのほうも休みとかその方面で、この先コロナがどうなるのかなというわからない時だったので、さよなら例会以降20周年を一緒にやっちゃおうという形で決まって年度計画のほうを作りましたので、来年のさよなら例会と20周年が一緒になってしまうんですけど、またその時には案内のほうを出しますのでよろしくお願ひいたします。

○深谷ノースRC



関口善伯様

皆さん、こんにちは。久しぶりに白河さんにお邪魔させていただきました。皆さんに今日会えるのを、本当に楽しみにしてきました。今回はプログラムの関係でロータリーの活動の100パーセントというわけにはいかないですけど、それなりに皆さん頑張ってください。次年度は、また私2回目の会長を仰せつかりまして、そのため白河さん共々お互いに協力し合いながらやっていきたい



と思っております。次年度、いろいろわたくしも深谷市が一万円札になるということで、渋沢栄一さんがね。そんなことで、いろんなことを私なりに計画しております。今後ともよろしくお願ひいたします。今日はありがとうございます。

○深谷ノースRC



小野猛様

皆さん、こんにちは。深谷ノースロータリークラブの小野でございます。私は多分、ほぼ毎回この会場には足を運んでいると思います。こう見渡してもほとんどの方々が大体顔がわかるんですけども、初めての方は後で名刺交換をさせていただきたいと思っております。今年度、わたくし姉妹クラブの担当委員長ということも仰せつかっております。姉妹クラブということでいいますと、国内こちらのクラブだけですので、言い換えれば白河西ロータリークラブとの窓口がわたくしということで顔のほう覚えていただきたいと思います。今年はあと11月12月、来年6か月あるわけですけど、その中で是非ともこちらのノースにも来ていただきたいと思います。今日は、ひとつよろしくお願ひいたします。

○深谷ノースRC



幹事 高田幸生様

皆様、こんにちは。今年度、幹事を仰せつかっております高田幸生と申します。よろしくお願ひいたします。また、先程の関口会長エレクトの次の会長ということで、予定者として努めさせていただきますので、その頃にはさすがにコロナウイルスも収まっていると思いますので、また積極的な交流ができるのではないかと考えておりますので、また引き続きお付き合いのほうさせていただければと思います。よろしくお願ひします。

○深谷ノースRC

会長 福島昭様

長々と大切な時間をありがとうございました。ノースの中枢部が今日はこちらの白河西さんのお邪魔をさせていただきました。今後ともどうか良いお付き合いをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。今日はありがとうございます。

■本日のプログラム

ゲスト卓話

○「コロナ禍 県の対応と今後の政策」

福島県議会議員 渡辺義信様



只今、ご紹介いただきました渡辺であります。今週の月曜日ですね、地元でうどんを食べておりましたら、齋藤孝弘という青年がちょうど隣に来て食べ始まりまして、「あれ、義信さん、いいとこで会った。木曜日、暇かい。」っていう話で今日の運びになりました。一緒にやっていたあの団体で、先輩の話は「はい、喜んで。」以外返事をしちゃ駄目だという教育を受けておまして、齋藤孝弘さんの話を「はい、喜んで。」と受けさせていただきました。彼は先輩ではないんですが、態度が先輩っぽいんで言うことを聞かせていただきました。これがご縁なんだなということで務めさせていただきます。孝弘さんのほうから「コロナ禍 県の対応とこれからの政策」について喋れということでありましたので、いろいろお話をさせていただきます。今朝の新聞、皆様見られたと思いますが、福島県知事もいよいよ自宅待機と

なっていました。陰性だったんですが、運転手さんが陽性だったということで、2週間自宅待機ということになりまして、27日に臨時議会が開かれる予定だったんですがそれが延期となりまして、我々議会そして県の行政系のスケジュールがもう相当大変なくらいばたばたとしています。身近な人がこういうことになると、ちょっと焦りが高まるんですが、人には正常性バイアスというのがあるらしくて、不安だらけになりますと精神的にも大変になってしまうので、正常性バイアスというのが働いてバランスが取れるんだそうです。ニュースとかでは大変だと言っただけで、その正常性バイアスが気持ちの中で、ああゆうには言ってるけどまさかうちの近所は大丈夫だっべ、その心境です。ある意味、私もそういうバイアスは相当かかって安心しておったところもあったんですが、昨日一昨日、知事と1.5メートルくらいで15分ほど喋ってたりしてましたし、そろそろ大変かなみたいなそんな思いであります。ちょっと油断しますと、すぐクラスターになってしまうというのがこの環境でありますので、皆様も十分注意いただきたいと思います。これからの政策ということでありましたので、政策についてちょっとお話ししたいと思います。今回のコロナ禍における政治行政の対応というのは、通常と全く違う心持ちなんです。それは何が決定的に違うかといいますと、その都度考えてその都度対応せねばならないという、そういうところが通常と違います。日本の世の中は、まず法律があって条例があったり規約があったり、いろんな決まりのもとに動いております。政治とか行政の部分も年度ごとに当初予算というのを組んで議会が承認して動き始めて、途中でいろいろ変化が起きたりするのを補正予算を組んでそれに基づいて動いているというのは政治行政の仕組みなんです。こういうコロナ禍になりますとそれじゃ間に合わないですよ。というのは、今年は4月からの予算を組んだのは去年の12月から2月くらいまでの間の考えなんです。でも、コロナの状況ってその頃はしっかり掴めていないので、当初予算も中身、当初の政策では対応は無理なんです。これがこういう時の危機管理の話だと思います。これは政治行政でもそうなんです。もちろん企業も個人もその都度その都度考えねばならないという環境は同じだろうと思っております。こんなことがありました。雇用調整助成金という国の制度ができて、それが内容がこうですというお話が国民にもわかるようになってきました。白河市に事務所があります社会保険労務士さんが県の団体の副会長をされてまして相談されました。この仕組みでは対応できねえぞと。これすごい使いづらい仕組みだぞということで、専門家だからこそわかる制度の穴、制度のミスってる部分というのはいろいろ出てくるのも、こういうタイミングだと思います。それでこの制度を作った国の役人さんご本人と話せる段取りを上杉謙太郎代議士に段取り仕込んでもらいまして、上京して行ってまいりました。年度始まってすぐくらいです。そしたら、上京ってよくするんですが、まず驚いたんですが新幹線椅子貸し切りですね。新幹線誰も乗っていないです。それで東京駅に降りたら、新幹線のホームを降りて東京駅のあの東京バナナとか売ってるあのフロアに人が一人もいないんですよ。それで店も閉まってるし、やってた店は弁当屋さん1件だけ。あの神輿みたいなのを置いてるあの弁当屋さんが1件だけで、弁当置いてあるフロアは50個くらいしか置いていないんですよ。ほとんど無人状態の東京駅って初めて見ましたが、そういう状況の中、制度を作った本人と最前線の事業者というお話を仕込ませていただきまして、それから何度となく制度が改善されて今に至っておるところであります。まだ、ベストではないだろうとは思いますが、走りながら考えているというのはコロナ禍のこの制度設計と実施する最前線の人

達の現状であります。持続化給付金が出てきた時も、誰が担当するんだとかいろんな課題がありまして、よしじゃあ関係団体皆で東京に行って説明すべという話をしましたら、移動制限なので来ないでくださいということで、柔らかに拒否られたんですよ。制度が甘いのを直すというのに拒否されたら何たることかということで裏技使いました。これは根本匠さんという自民党の中小企業調査会会長という人のパワーを使わせてもらったんですが、我々はこぞって行くことが無理だからあなたに来てもらいたいということで、実は経産省の中小企業の課長に部下一人だけ連れて福島市に来てもらいました。二人だけの移動なのでコロナの感染蔓延は防げるだろうということに、さすがに彼も異論は唱えることはできなくて来られました。そして、商工会議所と商工会の県の幹部の皆様、そして事務局の皆様、課長来るんだから課題をとにかくまとめてくれということで、その時に最前線の課題というのを国の制度を作っているご本人に伝えることができました。これも完ぺきではないんですが相当改善されてまいりました。当初、持続化給付金の窓口を新たに作った団体に受け持たせるという考えが主だったんです。でも、いろんな制度でそういう仕組みでなんかペーパーカンパニー通ったとかいろんなニュースもありましたが、その時に我々が言ったのは新たな団体を作ってそこで何千人も人を雇ってその人に対応させるよりも、会議所と商工会というのは日本全国に何千か所も事務所があるんですよ。そして、ほぼほぼ中小企業の方々ってその職員は顔見知ったんですよ。そこに受け持たせるのが普通なんだよという話をさせていただきまして、仕事量的に間に合うんですかと言われましたから、新たに作った団体に何千億の金を使って対応させるなら、今全国津々浦々にある団体に人件費を臨時で出して、そこでやってもらうのが一番だろうという話で、それは結局そうになりました。当初は我々最前線にいる人間にとってはそんな当たり前なんです。国の制度を作る役人の皆様は霞が関という特殊な場所におりますので、その辺がわからない場合もあるんですよ。だから、それを最前線の現状というのを伝えながら、制度をより良いものにしていくというのが、まさに地方の政治の係なんだなと思ったところでもあります。こういう走りながら考えねばならないというタイミングにおいては、制度設定が甘い浅いというのはある程度やむを得ないだろうというふうには思っております。中身を完璧に固めるよりもそれよりはスピード勝負で少しでも早く仕組みを国民の皆様へ開示する。そして、不備なところがあればその都度その都度改善を続けていくというのは、コロナ禍こういう危機的な状況における役所のあるべき姿なんだろうというふうに思ったところでもあります。一つなかなか上手くいかなかったケースがありまして、それは「みなし法人」と呼ばれている、役所的にいうと人格のない社団というらしいんですが、収益事業者なのに持続化補助金の対象にならないでしまっている団体、皆様っていうのは実はまだありまして、これはさすがに我々もまだ納得いってない部分があるんですが、何々生産組合という表現をしている収益事業があるんです。それはちゃんと納税していて商売なのに、表現がネーミングがまるまる生産組合っていうせいで、このいろんな事業の対象者にならないでしまっている。これはまだ議論続けておりますが、対象にならないままであります。最前線の気持ちをしっかりと伝えるという部分であります。全部が全部簡単に行くわけでもありませんので、継続して課題として取り組んでいるものも沢山あるのも現実でありまして、引き続き繋げていきたいというところでもあります。非常時の一年というのは、通常時の10年に匹敵するんだと表現をする方がおりました。大変な時というのは大変という漢字は大きく変わる。そういう時なんだという

表現をする方がおりました。まさに今、非常時だろうと思えます。通常の10年分の変化がこの一年で起きるんだろうというふうに思います。また、大変でありますから大きく変わるべき時なんだろうというふうにも思います。なかなか上手くも行かなかったり上手くいったりすることが混合しているこの半年であります。でもこれだけは手ごたえを感じているという部分があります。それはもう絶対崩せない岩盤状態だったこの国の役所の先例史に、それ先例ないですから、それを打ち砕くきっかけにはなっただろうというふうには思っております。先例がないんですから。戦後、記録が残っている限りそういう対応した例はございませんとよく仰られるんですが、そんな先例あるわけじゃないですか。なので、今対応せねばならない走りながら考えねばならないんだということに気付く今回きっかけになったんだろうというふうにも前向きに感じているところもあります。コロナとは違うんですが、去年先例によらない考え方がスタートした例が一つありましたので紹介したいと思います。去年の台風19号がありまして、ご当地も大変なご苦労した地域であります。災害復旧工事ってやるんですよ。それは法律で災害で壊れた部分をもとに戻すというのは法律の考え方なんです。でも、例えば川がカーブになって、川の外側が川の水が溢れちゃって崩壊して、そしてあたり一面が水浸しになってしまったという箇所が、災害の復旧の考え方だと前と同じく戻すんです。そしたら、また同じような雨が降ったらまた同じように壊れますよ。これっておかしいっていうのを多くの国民の皆様が感じていたことと思えますが、実は去年災害復旧工事の中に改良復旧という考え方がスタートしました。これは超危ない危険な場所が前よりも頑丈にすることができるんですよ。例えば、川の堤防が水が上を通っちゃって裏側がえぐれて崩壊した場所は、てっぺんまでブロック積んで上をコンクリートで舗装して、普通草にしておく裏側にもブロックで崩れないように施工することが実は可能になりました。改良復旧という考え方のスタートであります。これ今までいろんな場面で議論になったんですが、全く前進しない政策だったんですよ。それが去年、台風19号の被災した5日後くらいに自民党の二階幹事長という方が国交省の方を一人連れてヘリコプターで視察に来たんですよ。その時に、私と須賀川市長と太田豊秋という今の議長3人で出迎えたんですが、福島空港にヘリコプターが降りてきたんですよ。実はその時、朝東京を出まして長野県の千曲川のあたりを上空から視察して、そして福島県に来て空港に降りたんですよ。ヘリコプターって皆さん乗ったことあると思いますが、凄い常に乱気流の中にあるような状態なんですね。若者でも健康な人でなくたくたになるんですよ。相当に具合悪くなるんですが、当時80歳の二階さんがもう何時間も乗ってきたんですよ。そして、福島空港に降り立ったらば、もうよたよたで相当ダメージを受けているような雰囲気でも会議室に入ってもらって、でっかいテーブルに地図を広げて「幹事長、ここが大変なんです。」とかいろいろ説明をして、「よし、わかった。」とか、わかったって言うんですよ、もう、くたくたですから。そして、その時に「幹事長、実は災害復旧って前と同じ形にしたらもう1回壊れるんですよ。それって予算の無駄遣いじゃないですか。」とか、いろいろ説明しましたら、「その通り。」と一言仰いまして、脇にいた国交省の災害復旧担当の審議官かなんかだったと思えますが、その方にこの人たちの言うとおりの。制度設計すること、とそこで命令したんですよ。そしたら、法律改正されまして改良復旧という制度がその後スタートできました。前よりも頑丈な復旧の方法なので、次に同じような災害が起きることは明らかにレベルが防げるという意味で、明らかにレベルが上がったという事が進んだ瞬間に立

ち会いました。政治が動いた瞬間だなと思いながら、でも自分だったら80になったらヘリに乗れないかなとも思ったりしながら感謝した場面でありました。春から今でもそうですが、週に2回か3回のペースでんやかんやで上京しております。来週は火水木と3回上京します。最初に毎日毎日行き始まった頃に、ぶら下がり取材って行って、マスコミの皆様が囲まれるんですよ。そして、渡辺幹事長、昨日も来ましたよね。今、不要不急の外出が制限されているんですが大丈夫なんですかって聞かれるんです。不要不急な外出は控えるべきだと私も思います。しかし、昨日の案件も今日の案件も不要不急じゃなく必要火急なんですと言いましたら、必要火急、火急ってどういう字でしたっけと。あんまり聞き慣れない言葉を使いますと、インタビューって早めに終わったりするんですよ。必要火急で毎日来ている福島県の議員がいるということで、ちょっと話題になったことがありました。それに加えて自民党の総裁選の話があって行き来が増えて、それにプラスして先程会長の時間で吉野会長からありましたような某参議員議員のいろいろな行動に対応する状況もプラスされまして、ちょこまか行っております。違う言い方でいえば、いつコロナに罹っても不思議ではない、そういう環境にいるんだなということで、実は今、早寝早起き意識しています。食べ物もちゃんと3食いただいて、よく噛むようにしています。いろんな種類のもを食べるようにしております。手洗い、うがい、マスクしてます。あと、ポジティブなものの考え方を、くよくよしないようにしています。そうすると、免疫力が上がるのかなって誰かが言ったので実践したりして感染を防ぎながら上京を続けているところであります。コロナが増えてきてから議会が2回ありました。1回の議会で大体3週間くらい福島に泊まっているんですが、その時にいろんなお店、居酒屋とかいろんな所に入ったりしながら最前線の皆様の声を聴いたり、制度の説明をしたりというのを続けておりました。もともと、役所の方々が多いので成り立っている雰囲気のある福島市内でありますので、人の出入りが少なくなると大変なんですよ。本当すかすかになってる店もありましたし、変わらず混んでる店もありました。どこが違うのかなと観察してたんなんですが、比較的小規模の店主と、もしくは店主御夫婦でやられる居酒屋さんとか焼き鳥屋さんとか、そういう所というのは意外とお客って減ってなかったですね。ちょっとあげて座ってとか言って、あと新しいお客さんがガラガラと来たら「ああ、今すぐ出ますから。すいません。会計お願いします。」って回転を早くして、その代わり来たらばんぱん頼んで回転早くしながら飲み食いをお金使ってあげようみたいな、そういう雰囲気を感じたのは経営者とお客さんが顔見知りの小ぶりの店というのが意外とダメージ少なかったなと感じました。「ワタミフードサービス」でも居酒屋さんを個人焼肉に今展開してるらしいですが、そういう現状を把握しての転換なんだろうと思います。また、旅館も通常福島市内のビジネスホテルに泊まってらんですが、飯坂温泉とかにも4~5泊泊ってみました。そしたら、団体客がまとまって観光バスで来るような旅館は大変でした。でも、飯坂温泉の中に小ぶりの旅館はいっぱいあるんですよ。そういう所は意外とお客さんが繋がってまして、女将と話ししたら「今までの宿帳全部電話してまよ。」と言うんです。そして、「うちの対策大丈夫ですから、たまにお顔見せてください。」と言うと、行ってみるかとなってご夫婦で来て、対応がこれなら大丈夫か、今度じゃあうちの町会で使うかみたいな、そういう一歩づつお客さんとちゃんと繋がっている旅館業というのはダメージ少なかったなと思います。確か満席率65パーセントで損益分岐らしいんですが、65くらい頑張っ集めていたというのは、小ぶりの旅館の皆さんであり

ました。ちゃんと対応できるところはしっかりやってるんだなというふうに思ったところでありまして、ちなみに夏の頃にいわきの先輩があんたのほうに家族で泊まりに行きたいんだって言って、西郷村の立って入れる旅館頼んでくれと言われてまして電話しましたら、いっぱいなんですって言われてまして、旅館大変だったから助けてやるくらいの勢いで言われたんですが、実はお客さんちゃんと来ておりまして、しっかり対応している所ってすごいなというふうに思った、そんな例もございました。その都度、対応するというのは政治も情勢も冒頭言いましたがビジネスの世界でも同じなんだなとそういう実感であります。今後についてお話ししたいと思います。我々10年前から放射能に関していろいろなプレッシャー、ストレスを味わってきた県民の皆様であります。その時にいろんな場面で言われておりましたが、放射能というのを正しく知って、正しく恐れて、正しく対応するというのが大事なんだという話です。思い込みで、吸ったら死んじゃうぞとか、そういうものに振り回されすぎた数年があったんだろうというふうに思います。今回のコロナウイルスに関しまして、先程当初の型とヨーロッパ型との違いのお話もありましたが、コロナに関しまして正しく知って正しく恐れて正しく対応するというのが、今後のコロナ対策する上で一番のポイントなんだろうと思います。春の頃は、罹ったら死んじゃうってというイメージでありましたが、最近は罹っても持病がなかったり、健康な人であれば即、死に至るわけじゃないという認識が変わってきたらうと思います。春の頃に罹った人というのは、周りからいろんなところから相当なプレッシャーを受けまして、引っ越さざるを得なかった方とかは多くありました。昨今は、じゃあ外に出ないでいろよ、おとなしくしてろくらいで済み始まっているのかなと思います。これは正しく知って、正しく対応してる一つの例だというふうに思います。擬陽性という表現がありますが、抗原検査ではかったら陽性と出た。お医者さんに聞いたらPCR検査もやってみたほうが良いと言われた。そして、その当時はその日に発表したんです。その日に、どここの何歳、何十代の方が陽性になったと発表した。次の日、PCR検査した。陰性だった。えっと思って何回もした。何回も陰性だった。でも、陽性と発表した事実って残っちゃいまして、その方が利用していた介護施設が2週間閉店しなければならぬんですよ。これおかしな話で、いろいろ段取りしましたが、段取りしてるうちに2週間経っちゃいました。介護施設って、そうそう粗利率の高い仕事じゃないですから、2週間も閉鎖しちゃったらもう半年経ってもペイできないんですよ。それが発表したけど、もう1回やったら陰性だった。その後、何回陰性だったら取り消すとか、その仕組みはまだできてないんですよ。実はオリンピックの選手の仕組みが固まってきました。陰性だったら日本に来て大丈夫。陽性だとしても待機してから戻って3回陰性だったらセーフとかいうの今固まってきましたが、そういう決まりが国内の日常においてもちょっと整理しないと、これいつまでも混乱する恐れを感じております。それはこれからの仕組みについての課題であります。あと今、感染症の二類の指定なんですけど、二類ってコレラとか、あと罹ったらもう大出血で死んでしまう腸内炎とか、それとコロナなんです。これ当初は二類の扱いだったと思いますが、ここまでくれば四類とか五類とか、もう少しハードル下げてもいいのかなというふうに私は感じております。これは国のほうで決めている仕組みでありますので、県のほうで決断できる話ではないんですが、最前線の医療施設等の混乱を考えれば、この感染症についてはこの対応よりもハードル一個下げてもいいのかなというのはいずれ出てくる議論なんだろうというふうに思います。あとさっき話しましたように、春

の頃よりは陽性者に対するプレッシャーで少なくなってきたと思いますが、先週あたり札幌で蔓延しまして、テレビ見ますと北海道へのGOTOトラベルを止めるべきだという話が随分出まして、あれ北海道っていう主語になっちゃうんですが、ちなみに釧路も函館もたいして出てないんですよ。ちなみに、札幌と釧路って東京～名古屋くらい離れているんですよ。札幌に出たからって釧路にも行くなというのは、これ勘違いなんです。我々放射能の時に、福島第一原発なんて福島がとにかく危ないって言われて福島ナンバーは迫害受けましたが、福島ナンバーよりいわきナンバーのほうが危ないんじゃないって我々は知ってましたが、大人だからあんまり言えませんが、福島県の米よりも宮城南部の米のほうが大変じゃないと思ったけど言えませんが、北栃木、那須あたりのほうが線量強いって言わなかったですが、そういう思い込みに関しても正しく知って正しく対応するというのは、北海道のニュースを見ながら感じたところでありました。注意していきたいと思います。11月1日現在で、日本全国でインフルエンザの患者って何人いたと思います。日本全国でインフルエンザ、11月1日、先々週。はい、いい線いってますね。何と37人。全国で37人しかいないですよ、今、インフル。去年の同じ時期は4700人です。150分の1なんです。みんな注意してるからインフルにも罹りにくいです。で、コロナが致死率でいえば、インフルとほぼ争っている。なので、ちゃんと対応すればそんなに広がらなくて、そして経済活動と両立できるそういう行動の仕方はあるんだろうというふうに思います。幕末の頃に、コレラが大発生して何十万人も亡くなったらしいです。大正時代に、スペイン風邪でも30～40万人の日本人が亡くなったと聞きました。今生きている我々というのは、幕末のコレラにもワクチンがない時代ですよ。薬も何もない時代に幕末のコレラに生き残って、大正時代のスペイン風邪に生き残った人達の子孫ですから、我々ってそもそも免疫力高い人達ですから、必要以上に恐れることなく、そして甘く見ることもなく対応していくというのは今後の課題、コロナ対応なんだろうと思っております。うがい、手洗い、マスク、くよくよ考えない、早く寝る、沢山いろんなものを食べる。そんなことを気にしながら、しっかりと対応していければというふうに思っております。須藤さんに言われた25分になりましたので、以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

○吉野敬之会長

今日は貴重なお話ありがとうございました。実は渡辺義信県議は私の年齢で一つ上の先輩でありまして、白河青年会議所に入会したのは同じ年度で入会しておりまして、当時三四会などという会を作って一緒に活動させていただきました。その当時の話は、墓場まで持っていかなければいけないような話の一つや二つございますが、私は渡辺義信先輩を出世魚とよく表現させていただいております。その当時、青年会議所の新入会員セミナーというのでOBからお話をいただくという機会がありまして、今でもよく覚えております。渡辺義信先輩が、たまたま私のことを引き合いに出したのはシャレもあったんでしょう。吉野さんのように能力があっても、ちゃんと努力しない人間は10×1は10なんです。僕のように、1しか能力なくても100努力すると100になるんですという話を新入会員の前で語っておられました。何度か新幹線でお会いしても、いつも読書を欠かさず本当に努力をされてる方だなど、非常にそういう努力をされて100にされた方だなどと思いますが、まだまだ先はあると思っておりますので、是非これからも頑張っていただければと思います。本当に今日はありがとうございました。